

峠の向こうは春

阪神淡路大震災から30年 中学校生活・受験勉強への向き合い方を考える

日本は、地震の多い国と言われています。昨年1月1日に起こった能登半島地震をはじめ、これまで多くの地域を地震が襲いました。地震は、受験勉強をしている中学校3年生にも容赦なく大きな影響を与えることになります。

今から30年前、1995年1月17日早朝、兵庫県阪神淡路地方を大きな地震が襲いました。みなさんもいろいろな形で聞いたことがあると思います。その当時、西宮市で中学校の先生をされていた小川嘉憲先生の著書から、当時の中学校3年生の様子を紹介したいと思います。

このように記されています。

「阪神・淡路大震災のなかで、私たちは、『わが家』と『わが街』を壊され、愛する人たちをはじめ、たくさんの尊い命を失いました。その私たちに、復興に立ち上がる勇気を与えてくれたのは、子どもや青年たちの姿でした。私の中学校には、1000人近い被災者の方々が避難していました。学校もたいへんでしたが、子どもたちの家もたいへんです。家は壊れ、家具は散乱し、ガスも水道も出ません。飢えと寒さをしのいで生きることがこんなにもたいへんなことか、と実感しました。そんななかで子どもたちは、壊れた家の後片付けや修理、家具の持ち出し、屋根のシート張り、水くみ、買い出しなど、実によく働きました。そして少し時間のある子は、避難所になっている小・中学校などに救援ボランティアとして参加しました。(中略)

卒業生がよく中学校を訪れます。高校生活の報告や就職・進学相談など、職員室でかつての担任の先生と語って帰ります。そんなとき、『中学時代が一番よく勉強したのはいつごろかなあ』と聞くと、ほとんどの卒業生が『3年生の1月から2月だった』と言います。志望校が決まっていよいよ高校入試に向けてがんばる、という時期なのです。阪神・淡路大震災の年の受験生は、このいちばん勉強するという時期に、住む家もなく、ガスも水道もないなかでの生活を強いられたのです。『勉強どころではない』というなかで、受験勉強をしなければならなかったのです。」

「部活動で活躍したA君も、ある私立高校と地元の公立高校とを併願するつもりで、冬休み返上で頑張っていました。ところが、あの震災によって自宅が倒壊して、中学校に避

難することになってしまいました。彼は震災の日から、中学校で救援ボランティア活動に参加していました。早朝の朝食の配布からトイレ用の水運び、救援物資の運搬と整理など、休む暇もないほどの仕事を一生懸命やっていました。彼は、教室に寝泊まりしていました。昼間は、救援ボランティアに取り組み、夜は勉強するという毎日でした。同室の避難者の睡眠の妨げになるので、灯りはいつまでもつけておれません。彼らは火の気のない別の教室で、寒さにふるえながら受験勉強していました。ある日、『受験前のこんなとき、無理してボランティアをしなくていいよ。受験勉強やってたらいいのに』と同じ避難所のおばさんに言われたそうです。彼は、『無理してやってないっ』と憤慨していました。彼はおばさんに、『おれは、(被災者の)こんな状態をほっといて勉強だけやとられへん。受験のことも気になるけど、おれは両方やる。』と言ったそうです。『おれは無理してボランティアしてるのどちがう。ボランティアやってると、なんか気分が盛り上がるんや。その方が勉強に身が入るんや』と語っていました。A君だけではなくて多くの三年生が、水くみなど家庭の仕事から救援ボランティアまで、『昼間は働いて、夜は勉強する』という生活をしていました。

しばらくして、学校では、彼らのために図書室を開放しました。何人かの生徒が夜遅くまで勉強していました。『昼間、ボランティアをやって気分が盛り上がり、夜の勉強に身が入る』という言葉に、私は深く考えさせられました。

受験前はできるだけ余計なことをさせない、また考えさせないで、勉強に集中する環境をつくってやるのが、親や教師の責務みたいに考えてきました。A君たちのようを見ると、どうもそうとは言いきれないようです。同じ三年生のB君は、震災のあとすぐにお母さんの実家である岡山県に疎開しました。向こうでは何もすることがなくて、勉強だけしていたらよかったのに、西宮のことが気になって、受験勉強が手につかなかったそうです。ライフラインが復旧して西宮に帰ってきました。そして、半壊した家の修理などをやり、友だちと避難所に行ったりしました。そうするなかで、公立高校めざして受験勉強に励む気になったそうです。『自分の働きがみんなの役に立っている』『充実した生活がある』、そんなことを実感しているときに、受験勉強も気力がみなぎって集中して取り組めるようです。」

この文章の最後にある『自分の働きがみんなの役に立っている』『充実した生活がある』、そんなことを実感しているときに、受験勉強も気力がみなぎって集中して取り組めるようです。という言葉で締めくくられていますが、人ってそういうもの、人間らしさってそういうものだと思います。人のために何かしようとする人は、自分のことも頑張れます。自分中心にしか考えられない人は、他人のことは自分には関係のないこと、あるいは余計なことと思ってしまうのでしょうか。

誤解を恐れずに言うならば、いくら勉強ができて、いくらスポーツが優秀であっても、自分の気分感情でしか考えられないのはどうかと思います。クラスの仲間と一緒に頑張ること、他人のために頑張ることって、とても大切なこと、気持ちの良いこと、素敵なことだと考えられるのなら、みなさんのこれからの中学校生活や受験勉強への向かい方は、とてもすばらしいことになると思います。